若き心

KAWASAKI COLLEGE OF ALLIED HEALTH PROFESSIONS

川崎医療短期大学　広報誌

2011年　9月発行　No.74

X線撮影の実習風景（放射線技術科）

（撮　影：天野 貴司）

特　集　教育戦略

- 公開講座
- 活動報告
- オペレッタ発表会
- 私の好きな○○
- 教員の自己紹介／先輩から後輩へ
- 新任教職員／研究生紹介
- 同窓会からの寄贈
- 学園祭紹介
- 川崎エコプロジェクト
- インフォメーション

特集

これが川崎医療短期大学の「大学全入時代」を迎えた 教育戦略

7つの教育戦略について語る

1 入学前教育
2 初年次教育
3 プレースメントテスト
4 リメディアル教育
5 編入学支援
6 GPA制度の導入
7 単位制と単位保留制度

教務部長　兵藤 文則

川崎医療短期大学は、「人をつくる、体をつくる、深い専門的知識・技能を身につける」という三カ条の建学の理念を教育の基盤に据え、時代の求める実践重視の教育を行ってきました。昭和四十八年四月の開学以来、卒業生は約一万三千名、それぞれの夢を適え全国各地で活躍し、各方面から高い評価をうけています。この輝かしい伝統を守るため、カリキュラム改正等を行い、様々な問題に対処してきました。しかし、近年、次に述べるような難題が出現しています。これら負の要素は早急に対処しなければ、連鎖を招き、学生諸君の夢の実現阻止へと導きかねません。

わが国は、二〇〇七年から、少子化と大学の新設ラッシュ、そして入学定員増加に伴い「大学全入時代」に入ったとされています。多くの大学が、受験生への門戸を広げるため数種類の入試区分を設定しており、その結果、学力試験を経て入学してくるわが国の私立大学の学生は、文部科学省の発表によると、二〇〇七年度で新入生の約20％にすぎません。また、これに加えて、ここ数年の入学生は、ゆとり教育の申し子達の世代です。これらが相俟って、入学してくる学生、特に学力試験を経ずに入学して来た学生のなかには、基本的な学習技術不足、そして基礎学力不足が顕著であり、これが因となり、大学での専門教育を理解するのが困難な学生が著増していると言われています。本学でもこの例に漏れることなく、同様の状態であり、この状態を打開することが緊急の課題であります。これに対処する方策として、本学では、1入学前教育（入学前学習支援）、2初年次教育、3プレースメントテスト、4リメディアル教育（補習教育）を実施し、これらを有機的に組み合わせることにより、自律的な学習習慣の確立、基礎学力の補完を目指しています。

勿論、これらの改善策と教員個々の教育力の評価を確認するため、「学生による授業評価」や「全教員に対するアンケート調査」等を行い、マネジメントサイクルであるPDCAサイクル（P：計画、D：実行、C：評価、A：改善）を回転させて、このサイクルをスパイラルアップし、さらなる改善策や、教育力の向上の方策を検討し、より良い教育体制づくりを目指しています。

次に、これらの教育改善策に関して少し詳しく説明し、さらに本学として現在取り組んでいるまたは取り組む予定の教育支援策についても紹介します。

教育戦略の構造図

1 入学前教育（入学前学習支援）

入学前教育は、大別して二種類の内容からなっています。

(1)基礎学力の確認　入学後の学習を円滑で効果的なものにするために高校卒業までに学習した基本事項を再確認すること、つまり基礎学力の底上げです。これには、(i)全学共通課題の「日本語学習」と(ii)「各学科の教科別ポイント学習」を設けています。

(i)「日本語学習」は、本学のあらゆる学科の専門的知識を学び、理解するうえで必須のものであることは自明の理であり、修得しておくべきものです。さらに、日本語力は、将来社会人となり、社会で活躍するためにも必要な能力の一つでもあります。この学習の具体的な実施内容として、新聞記事を題材としたものがあります。平成二十三年度から改訂される高校国語の新指導要領でも新聞教育が取り上げられており、言語能力、読解力、情報活用能力、問題発見能力を養うことにつながるとされ重要視されています。本学では、入学後も、引き続いて新聞を活用した日本語教育が実施され、入学前教育と有機的なつながりを持って、新入生諸君の日本語力のさらなる向上を目指すことになります。

(ii)「教科別ポイント学習」の内容は、各学科の専門基礎・専門教科を学習する際に、必須の基礎知識となる高校で学習した教科の内容で構成されています。平成二十三年度版の改訂内容として、理系の教科別ポイントの項が、各教科のそれぞれの学習項目の漠然とした学習に終わらないように、学習した項目の理解度を確認する意味を込めて、練習問題を課すことにしました。この練習問題は、入学後に学習する専門基礎の理解のために必要な項目から構成されており、入学予定者にはぜひ修得しておいていただきたいと考えています。特に必要な理系科目を各学科で二科目選択しており、この科目の練習問題の解答は必ず提出していただくことになっています。また、高校でこの科目を履修していない、あるいは苦手な科目であるなどで練習問題等に対処しづらい場合に備えて、本学に各科目担当の指導教員を配置し、対応することにしています。

(2)学科別課題　入学予定者が将来就くであろう専門職あるいは専門分野への関心と興味を高めるために学科別の課題を設けています。

学科別課題は、それぞれの専門職あるいは医療・福祉全般に関連した書籍などを提示し、そのレポートを提出していただくことです。このことにより、本学に入学する目的を再認識し、積極的にしかも興味を持ってそれぞれの専門分野に臨むことを期待しています。

2 初年次教育

大学の勉学は自発的・自主的にするものであり、高校までの受け身の勉学スタイルから転換する必要があります。近年は、高校までの勉学スタイルから大学のそれへの学びの質の転換ができず、授業の受け方・ノートの取り方が解らない、自律学習の習慣がないなどの基本的な学習技術不足の新入生が増加しています。初年次教育は、そのような勉学上あるいは生活上の戸惑いを感じている学生に、それぞれに対しての順応方策を示唆することを目的としています。

初年次教育の成否は、これからの大学での学習と生活の充実度を左右するとされており、本学でもこの教育を充実させるのは緊急の課題となっています。

本学では、初年次教育用の冊子として、平成二十二年度に学生生活委員会によって『アドバイザー・担任のための学生支援マニュアル』が作成されました。この冊子は、第一章「学びを支援する」、第二章「大学生としてのマナーを身につけさせる」、第三章「コミュニケーションの大切さを伝える」、第四章「メンタルヘルスへの対応」から構成されており、主として、アドバイザーが、この冊子を用いて新入生の初年次教育に当たっています。

3 プレースメントテスト

前述のように、大学全入時代の到来、入学者選抜方法の多様化、そしてゆとり教育、これらが相俟って、基礎学力の低下した新入生が増加しているとされています。プレースメントテスト（習熟度測定試験）は、その実態を明らかにし、教育方法の改善を詳細に亘って探る上では必要不可欠なものです。

本学では、日本語と理数系科目（生物・化学・物理・数学）のプレースメントテストを実施しています。日本語プレースメントテストは平成十九年度から平成二十一年度まで「教育・学習方法等改善支援」の補助金等を活用して、全新入生を対象として開始され、さらに、入学後の教育による日本語力の変遷を追跡調査するため、各学年度末に全学科の全学年にわたり実施しています。また、理数系科目のプレースメントテストは、平成二十三年度から実施しました。なお、これらのプレースメントテストは、文部科学省の大学教育推進プログラムに選定された「学士力向上のための統合的教育戦略」の一つとして実施されています。このプログラムに関しては、号をあらためて紹介します。

(1)日本語プレースメントテスト

大学の講義を理解するには、日本語プレースメントテストを開発した業者が定めている高校三年生レベルの語彙力が必要とされています。平成十九年度では、このレベルの語彙力を身につけている本学の新入学生は約50％でありましたが、年々減少し、現在は30％近くまで減少しています。また、語彙力不足の学生のなかには、中学生レベルの学生が存在し、そのレベルの学生の割合が年々増加傾向にあります。この様に、本学では、日本語の基礎学力の低下は深刻な状態にあるといえます。この対策として、本学では、一年次に「日本語」と「文章表現」という日本語の講義を設けており、その教育効果として、一年次学期末には語彙力が有意に増加していました。しかし、二年次以降にはこの講義は用意されていません。そこで、二年次以降にも日本語教育を続行するため、自主的に学習可能な新聞を活用した

▲「日本語」の授業風景

題材を含むワークブック（医療・福祉系学生のための小論文の実践）の作成を試みています。

平成二十二年度から語彙力のみを測定するものから、総合的な国語力を測定するプレースメントテストに変更しました。この新しいプレースメントテストでは、より詳細な国語力（語彙力、表現力、読解力）が測定できます。この新しい試みから、語彙力の低下よりも読解力の低下が深刻であることが判明しました。この現状に対処するために、入学前教育から卒業までを見通した日本語力向上の方策を検討しています。

(2)理数系科目のプレースメントテスト

このプレースメントテストは、「大学教育推進プログラム」の参加対象になっている三学科の新入生を対象に平成二十三年度から実施されています。

理数系科目（生物Ⅰ、化学Ⅰ、物理Ⅰ、数学）は、各学科の専門基礎・専門分野を学ぶ上で必須の基礎科目であります。これらの科目の学力レベルを知るために、理数系科目のプレースメントテストを実施しています。このテストで受ける科目は、看護科は生物と化学、臨床検査科は化学と数学、放射線技術科は数学と物理が選択されています。これらの科目が低学力レベルであることは、それぞれの学科の専門基礎・専門分野科目の理解の妨げとなります。そこで学力レベルに問題のある学生には専門基礎・専門分野を学習する前に、緊急に支援策を採る必要があります。

このテストを作成した業者によると、テストのレベルは、偏差値が35～45の四年制大学で正答率が6割程度獲得できるものであり、難解なものではないとの評価です。テストの結果は、数学は平均点が8割あるものの、生物、物理の平均点は、4割5分ほどであり、化学は、3割もないという惨憺（さんたん）たるものでした。また、高得点であった数学では、グラフが90点をピークとする大人数で構成される分布と50点をピークとする少人数で構成される分布の二峰性を示しました。少人数で構成されるグラフの構成員には、40点以下が約10名含まれており、数学の基礎力が必要とされる学科では、この実態は深刻な問題です。このような学生には、専門基礎・専門の教科を学習する前に最低限の基礎力を獲得させる必要があります。また、物理、化学、生物に関しても、各教科とも20点台が20名程おり、これらの基礎教科の理解は各学科の専門基礎・専門の講義の理解には必須であることから、早急な基礎教科学力補完対策を講じる必要があります。

▲「プレースメントテスト」の様子

入試区分のうち、学力試験を課した入試区分で入学する学生は、基礎学力が高く、学力試験を課さない入試区分で入学する学生は、基礎学力が低いという傾向が明瞭に認められます。専門基礎及び専門教育の内容を理解するためには、充分な基礎学力の補完が極めて重要なことは申すまでもありません。本学としては基礎学力不足者に対しては入学前教育、初年次教育、リメディアル教育を通じて基礎学力の向上にテコ入れを行うとともに、その教育方法の改善にも力をいれつつあります。

4 リメディアル教育（補習教育）

先に述べたように大学の全入時代あるいはユニバーサル化による影響として、新入生の学力の低下が指摘されています。また、大学入試の選抜方法の多様化及び高校教育の多様化により、大学入学後の各学科の専門基礎・専門教育の講義を理解するうえで必須の基礎科目を高校で履修していない、あるいは履修していても、低学力であるなどの問題が生じており、リメディアル教育の重要性が指摘されています。リメディアル教育は、専門基礎・専門教育の講義を理解するために必要な最低限の基礎学力を確保するために行われており、それは入学前教育から始まり、入学後の本格的なリメディアル教育へと受け継がれています。本学では、入学後のリメディアル教育として、平成十五年度から、五時限に一部の学科で基礎科目の補習授業を実施してきました。平成二十一年度に行われたカリキュラム改正以降からは、生物学Ⅰ、化学Ⅰ、物理学Ⅰ、数学Ⅰなど、より高校での履修内容に準拠したリメディアル教育を、全学科で一年次に実施しています。

一方、平成二十一年度から、「一年次学生による授業評価」を実施しています。この授業評価で、特定の医学的専門基礎分野科目が、「授業内容が理解できない」との評価をうけました。この結果をもたらした大きな要因として、理系リメディアル科目（生物Ⅰ、化学Ⅰなど）と専門基礎科目（生化学、臨床微生物学、人体の機能など）の間で、系統的で順次性を考慮した時間割の組み立てができず、これらの科目が同時期に並行的な進行を余儀なくされたことがあげられます。専門基礎科目・専門科目の講義を理解するためには、これらの講義を受講する前に、理系リメディアル科目の修得が必須だと判断されます。従って、この点を考慮した時間割編

成が必要となります。

平成二十四年度から、時間割を改正し、クォーター制の一部導入を実施したいと考えています。各学科の専門基礎及び専門科目の講義を理解するに当たって、特に重要だと考えられる理系リメディアル科目を各学科で二科目選択し、その二科目の基礎学力補完をクォーター制で行い、その後、各学科の専門基礎を学習するという系統的で順次性を重視した時間割編成への改正を目指しています。また、この時間割改正と同時に、習熟度を考慮にいれたコース制を導入したいと考えています。

また、平成二十四年度から、クォーター制を補完するために、各学科で、六時限あるいは、土曜日を使った正規時間割外での補強授業を計画しています。

5 編入学支援

本学では、近年、編入学を希望する学生が増加しており、これらの学生に「編入学支援」を実施しています。本学の編入学支援は、四年制大学への編入学だけではなく、専門学校や大学専攻科、大学院などを含め、広く進学を希望する学生を支援することを目的としています。平成二十年度と二十一年度の編入学者は卒業生の約10％を占めていました。その支援の具体的な活動は、編入学に関する情報提供を行う「編入学支援ガイダンス」の実施と、「試験対策講座」の開講です。試験対策講座として、「英語」と「小論文」を開講しており、これらの講座の教授法は、相談室形式での個別指導を原則としています。「英語」の講義は、eラーニングシステムを利用して行っています。

このような支援は極めて有効で、希望者の多くは当初の目的校への進学・編入が叶えられています。短期大学への志願者が減少してきている今日、短期大学から有力四年制大学への進学・編入の道は、短期大学の大きな利点であり、多いに宣伝すべきものであります。

6 GPA制度の導入

大学全入時代をむかえて、文部科学省は、教育の質や卒業生の質の低下を危惧しています。従来のままの個々の教員の裁量に依存した成績評価では、全入時代の学生の変容に際し、学生確保という経営上の要請も相俟って、なし崩し的に安易な成績評価が広がることを危惧、これを防ぐために客観的で厳格な成績評価システムの導入が必要だとしています。このような考えに基づいて同省は、成績評価システムとしてGPAの導入を推奨しています。このGPAは、北米を中心に広く世界で採用されている標準的な成績評価システムで、すでに日本でも多くの大学が導入しています。本学でも、平成二十二年度から導入しております。

GPAはGrade Point Averageの略で、平均成績係数を指します。これまでの成績評価は、優（80～100点）・良（70～79）・可（60～69）・不可（0～59）の四段階でしたが、GPAは、履修登録した科目ごとの五段階評価（90～100点、80～89点、70～79点、60～69点、0～59点）を4からOまでの点数（GP：Grade Point）に置き換えて、単位数を掛け、その総和を履修登録単位数の合計で割った平均点です。学生は、自らの単位取得状況と同時に学修状況を数値で客観的に把握でき、教員は、GPAの高い学生の学修意欲をさらに高め、GPAの低い学生には早期に特別な履修指導あるいは学修指導するなどのきめ細やかな指導が可能となります。この制度では、履修した全ての科目の成績（GP）の平均点が問題となりますので、いままでのように、合格すれば良いという考え方を改め、合格の質をあげていく必要があります。他大学では、GPAを進級判定や卒業判定の基準、あるいは退学勧告の基準として活用しているところもあります。

中央教育審議会の答申では、学生の学習履歴等の記録と自己管理のためのシステムの開発（学習ポートフォリオ等）、きめ細やかな履修指導や学習支援を行うアドバイザー制の導入などがGPA制度を補完するために重要であると指摘しています。

現在、本学では、学修指導を行うGPAの点数とその指導方法・内容等の有効利用を、検討しているところです。この試みが学生諸君の学力レベルアップへとつながり、延いては教育や卒業生の質向上の一助になると期待しています。

7 単位制と単位保留制度

平成二十一年度から本学の教育システムは学年制から単位制に改正されました。単位制は教育システムとして、一種の国際標準となっており、わが国でも殆（ほとん）どの大学がこれを採用しています。この単位制の的確な運用は、教育の質の維持、国際的な通用性の確保の観点から不可欠であるとされています。そして、この制度の実質化のためには、客観的で厳格な評価を行うGPA制度、GPA制度を補完するアドバイザー制度、シラバスの整備、セメスター制とキャップ制等を取り入れる必要があるとされています。

単位保留制度は、単位制の運用を円滑にすると同時に学習指導をより強化する目的で導入されました。この制度は、授業への出席が極めて良好な学生に適用されます。その学生が、定期試験などで、合格点の成績を獲得できなかったが、その獲得成績が、追加的指導により十分に合格点に達しうる能力を有していると判断される点数である場合、その学生の成績を不可としないで評価を保留し、原則として次年度の指導により再評価することができるというものです。その指導は、時間割外の時間帯に設定することができ、指導方式は、通常の講義形式あるいはeラーニング方式どちらでも良いということになっています。

〔付記〕 川崎医療短期大学の教育に関しては、守田哲朗前学長と今城吉成現学長により、過去から将来に至る教育的戦略について、本医療短期大学紀要第三十号記念号に特別寄稿されています。ぜひ、ご一読ください。

平成二十三年度　第一回公開講座

テーマ　乳がんについて ―予防・診断・治療―

臨床検査科　教授　森谷 卓也

▲熱心に講演する先生

六月十二日(日) 午前十時から十一時三〇分、本学体育館一〇二号教室において、第一回公開講座が開催されました。「乳がんについて―予防・診断・治療―」というテーマで、川崎医科大学、川崎医療短期大学を兼務されている森谷卓也教授より、講演が行われました。

当日は朝からあいにくの雨空でありましたが、約九十名(一般四十名、教職員・学生四十八名) の参加者が体育館に集まりました。

講演のはじめに乳がんについて、実話に基づく映画「余命一ヶ月の花嫁」のように一ヶ月で亡くなる人や、数十年の闘病生活を送られて亡くなる人もおり、各個人により進行や余命が異なることを説明されました。

その上で、乳がんについて①統計、②原因・予防、③症状・診断、④しくみ、⑤治療について5つの項目に分けてとてもわかりやすい解説がありました。

最後に、患者のためのインフォームド・コンセントやセカンドオピニオン、チーム医療について、また、乳がんの啓発活動である「ピンクリボン運動」について説明があり、早期発見、検診の大切さを話され、参加者も熱心に耳を傾けていました。

講演後は聴講者の方から乳がんについてさまざまな質問があり、活発な質疑応答が行われました。また、講演後のアンケートからも大変好評であることが明らかになっています。

(臨床検査科　鐵原 拓雄)

▲講演に聞き入る参加者

平成二十三年度　第二回公開講座

テーマ　「口腔ケアで介護予防」 いつまでも自分らしく、おいしく食べるために

前岡山県歯科衛生士会　会長　松尾 敬子 氏
介護福祉科　教授　三宅 妙子

やっと猛暑が和らいだ八月二十日(土) 午前十時から本学体育館一〇一号教室で口腔機能向上を目的に、「口腔ケアで介護予防　いつまでも自分らしく、おいしく食べるために」のテーマで、前岡山県歯科衛生士会会長松尾敬子氏をお迎えして第二回公開講座が開催されました。当日は、地域の方々を始め、介護の現場で活躍している介護福祉士など百三十三名(一般七十四名、卒業生四十一名、教職員・学生十八名)が受講されました。はじめに、本学の介護福祉科主任である藤原芳朗から開会の挨拶と講師紹介があり、続いて松尾氏の講義と実習が行われました。

まず、松尾氏から口腔ケアについて講演があり、その中で、美味しく食べること、飲み込むことはおいしさがもたらす心身の健康に影響すると説明されました。次に、口の中を上手にきれいにすることについて、正しい歯磨きの方法、歯垢と舌苔(舌にこびり付いた汚れ) の除去方法、さらに入れ歯に付着した汚れの清掃と管理方法を説明され、最後にブクブクうがいの実践がありました。これは、口の機能向上も期待できる方法で一日二回の実践を薦められました。さらに口の機能を保つ方法～健口体操～について、まず、食べ物が安全に食道に達するまでの口の中のしくみを説明されました。加えて、健口体操と並行してお口の機能面の健康チェック、さらに、唾液腺のマッサージ方法と続きました。これら体験学習が盛りだくさんの内容は、参加者にとって興味深く、わかりやすかったため、質疑応答も予定の時間をオーバーするほどの盛況ぶりでした。

お口がきれいになり、健口体操でリラックスした頃はちょうどランチタイム。そこで、本学介護福祉科教授の三宅妙子(食生活担当)が、食べる力と飲み込む力に合わせた、嚥下(えんげ)訓練開始食から普通食に近い介護食について説明し、参加者の皆さまに試食も経験していただきました。

(介護福祉科　三宅 妙子)

▲歯磨きの実践中

活動

学友会を中心とした募金

被災された皆様の一日も早い復興を願って

三月十一日に起こった東日本大震災。テレビの前でただ現実にショックを受けているだけでなく、私たちにもできることがあるはず、そう思い、学友会では募金活動を行うことになりました。

三月十五日の卒業式では、急な呼びかけだったにもかかわらず、軽音楽部の皆さんを始め多くの人が活動に協力してくださり、25万円を越える義援金が集まりました。その後も、中庄駅や学内で活動を続け、40万円以上の義援金が集まり、七月に山陽新聞社へ寄付しました。

今後も学内や学園祭で募金活動を続けていきますので、ご協力よろしくお願いします。

（学友会副委員長　綾田 美友）

▲募金をしてくださった方々に感謝

▲寄付が完了した旨を学長に報告

寄付金領収証

川崎医療短期大学 学友会殿

金 ¥434676

山陽新聞社会事業団

活躍

バドミントンの大会において

川崎医科大学のバドミントン部に所属する本学の学生三名が、バドミントンの大会において優秀な成績を収めました。日々のたゆまない努力で勝ち取った栄誉です。これからの活躍も期待しています。

放射線技術科1年
伊藤 総志

放射線技術科2年
坂口 瑞生

臨床検査科3年
五藤 早貴

各大会での成績

第四十九回　中国・四国医薬医短学生バドミントン大会

- 優勝　女子団体（川崎医科大学）
- 優勝　女子個人戦ダブルス（五藤 早貴・坂口 瑞生ペア）
- 準優勝　女子個人戦シングルス（五藤 早貴）

第二十三回　中国医歯薬看護学生バドミントン大会

- 準優勝　女子個人戦ダブルス（五藤 早貴・坂口 瑞生ペア）
- 三位　女子個人戦シングルス（五藤 早貴）
- 三位　男子個人戦ダブルス（伊藤 総志・医科大学生ペア）

向上

NIEの取り組み 学士力

山陽新聞論説委員会の木山博雅主幹を招き、五月十三日（金）介護福祉科一、二年生約九十人を対象に特別講義を開催しました。当日の山陽新聞朝刊を教材として、新聞の役割、コラム「滴一滴」や記事の読み方を学びました。

情報を収集する上で、人と人との繋がりが重要であること、何が言いたいかきちんと分かるように書くこと、構成とリズムが重要であると教えて頂いたことが、印象に強く残ったようです。

普段あまり新聞を読まない学生にとっては、新聞が社会について知る上で重要な情報源であることを認識することができる機会となりました。

NIE（newspaper In Education）とは、教育に新聞を活用していこうという取り組みのことです。文部科学省は学士力の一つとして、情報活用能力を挙げています。NIEによって、この力や文章力を養成することを目指しています。

当日の模様は、五月十四日付山陽新聞朝刊に掲載されました。

第5回　医療保育科
7月24日（日）開催

オペレッタ発表会

医療保育科では、子どもと表現を楽しみ、その表現を豊かにできる保育者育成の一環として、オペレッタ制作の授業に取り組んでいます。また、この授業を通して、言葉・音楽・絵画造形・身体表現の分野を総合的にとらえ、集団での創作活動に取り組み、保育者に必要な感性・創造力・表現技能を身につけていきます。

今回は、オペレッタが出来上がるまでの様子をご紹介します。

☆オペレッタとは…「台詞と踊りのある音楽付きの歌劇」です。

1 グループ決定 & 演目・配置決め

1グループ13～14名がくじ引きによって決まります。次に演目決め。演目も「欧米の話」「アジアの話」「日本の話」「桃太郎」「ラッキーカード（医療保育的な話）」と書かれたくじ引きで決まります。誰とメンバーになるか、何を演じるかはまさしく運任せ…みんなドキドキです。

2 オペレッタの命「脚本」作成

脚本は、舞台制作の根幹をなす、非常に重要なもので、台詞・動き・音楽・照明など、表現したいことの全てが書き込まれています。

教員からのアドバイスや仲間との話し合いの結果が、何度も何度も書き込まれては消されたり、いいアイデアが出たと思ったら元に戻ったり、意見が合わず紛糾したり…そんな作業を繰り返しながら、亀の歩みのように少しずつ少しずつ前進していきます。

3 ひらすら稽古

▲授業は「発声」の練習から始まります。台詞を覚えていても、相手に声が届かないと意味がありません。

4 各パートに分かれての制作

オペレッタ制作は演技の練習だけにとどまりません。お知らせのポスターや案内状、役柄にあった衣装づくり、舞台上で使用する背景や小道具・大道具づくりなど、100％手作りで行います。

ここまでに培ってきた絵画造形表現の技術がいかんなく発揮されます。

▲ポスター・案内状

▲衣装

▲舞台道具

5 リハーサル&本番

今年度はリハーサルを在学生に公開、本番をオープンキャンパス参加者や在学生の家族に公開しました。2か月に及ぶ制作期間で作り上げたすべてが、この2日間で発表されます。

身に付けることができた表現技術以上に、これまでに仲間と築き上げてきた絆は、何ものにも代えられません。

▲「王子と指輪」の演技風景

▲「桃太郎」の演技風景

新企画 私の好きな○○

今回、「私の好きな○○」と題した新しい企画を立ち上げました。学生による執筆原稿をできるだけ多く掲載したいという思いからです。執筆は、「日本語」の授業と連携し、講義の一部で行いました。また、初めての試みとして「公募」でも原稿を集めました。

学生たちの素直な感情や思いが書き込まれた原稿となっています。どうぞお楽しみください。

▲今回の原稿募集ポスター

私の好きなこと

私は、公園や海沿いを散歩することが好きです。なぜなら、散歩をしていると、知らない人ともあいさつを交わすことや、気軽に話すことができるからです。また、小さい子どもから、おじいちゃん、おばあちゃんといった年齢を超えてコミュニケーションがとれ、色々な人と友だちになれていくようで、散歩をすると気分転換だけでなく、視野が広がるからです。

以前、散歩をしていて、犬の話をきっかけに仲よくなったおじいちゃんがいます。その人と話をしていて、私の地元の昔の出来事や地形のことなど詳しく教えてもらい、知らないことばかりだったので、とても新鮮でした。

年齢を超えて仲よくなれば、自分の視野も広がりコミュニケーションもとれるので、みなさんも散歩をもっとしてみてください。

川崎医療短期大学

最優秀賞 医療保育科 一年 森 瑞希

私の好きな場所

私の好きな場所は、四万十川です。

四万十川は「日本最後の清流」として有名で、私の出身地である高知県を流れるとてもきれいな川です。

春には川原をお散歩したり、夏には泳いだりバーベキューをしたり花火をしたり、もぐって魚やエビを突いたりもします。秋には流木を集めて焼きいもをしたり、冬には火をおこしてキムチなべをしたりするなど、四万十川には一年中お世話になっていました。

今は地元を離れ、四万十川で遊ぶ機会がうんと減ってしまい寂しいです。しかし、夏休みに高知に帰って四万十川で遊ぶことを想像するととても楽しみで、しんどい勉強も頑張れそうな気がします。

もし高知に行く機会があれば、四万十川に寄ってみてください。

川崎医療短期大学

優秀賞 医療保育科 一年 敷地 渚

私の好きな本

私の好きな本は、推理小説です。昔は、漫画の方が好きで本を読むのは苦手でした。

高校生一年生の時に毎朝電車で一緒になる自分と同い年くらいの人が、いつも小説を読んでいました。「すごいなぁ、小説読んでる。頭よさそうだなぁ」と最初見た時に思いました。私はある日、思わず声をかけました。

「何の本読んでいるの？」と聞くと彼女は「推理小説だよ」と驚き恥ずかしそうに答えました。本の内容が気になり色々と質問をしていました。気づくと『次は笠岡〜』とアナウンスが流れてくるのが聞こえました。私は、慌てて「じゃあね」と席をたちました。すると、彼女も同じ学校の制服で私は驚きました。

彼女とは、今では新しい本が出たら貸し借りする仲になりました。また、1つの推理小説を2人で読みながら展開を推理するなど、とても楽しい時間を過ごしています。今読んでいる桜庭一樹著『GOSICK』も彼女と一緒に推理をしてみたいです。

川崎医療短期大学

優秀賞 医療保育科 一年 妹尾 果林

教員の自己紹介㉓

「私とMRIの関わり」

放射線技術科　講師　田淵 昭彦

私は、本学の放射線技術科を卒業（八期卒業生）し、川崎医科大学附属川崎病院で二十三年間勤務しています。MRI装置は、今では誰もが知っている撮像装置ですが、就職した当時は、見たことも聞いたこともありませんでした。MRIが附属川崎病院に初めて設置されたとき、縁あって担当責任者となり、今でもMRIを中心に診療放射線技師の業務を行っています。そのため、本学での講義は、「デジタル断層画像検査学」の一部である『MRIイメージング』を担当しています。

ここで、私のこれまでのMRIに関する研究活動についてお話します。MRIでの撮像中、臓器等が動くことにより余計な偽画像（アーチファクト）が発生します。この『アーチファクトの低減』を研究テーマに長年研究を進めています。これまでの成果としては、肝臓のMRI撮像において、呼吸性の動きによるアーチファクトを低減する新しい呼吸停止法を考案し、その有効性が認められ、学会誌や商業誌に掲載されました（写真参照）。最近は、血管の拍動によるアーチファクトを低減する方法も検討しています。

診療放射線技師に与えられた使命は、いかにして診断に有用な画像を医師に提供するかです。原理だけを勉強するのは本当に退屈なことだと思います。幸いなことに本学では、川崎医科大学附属病院での臨床実習が充実しています。さらに、本学との兼任教員も多くいます。実習を通じ原理と臨床とを確実に結び付けていってください。卒業後も、学会会場や研究会等で再会できることを楽しみにしています。

▲「新しい呼吸法」が掲載された学会誌と商業誌

先輩から後輩へ㉓

「川崎医療短期大学の理念を知っていますか」

岡山済生会総合病院　中央検査科
技術長　木村 泰治
（臨床検査科8期生）

皆さんは川崎医療短期大学の理念を知っていますか。「人をつくる」「体をつくる」「深い専門的知識・技能を身につける」です。私が学生の頃（およそ三十年前）は、三つ目が「医学をきわめる」だったと記憶していますが、間違っているかもしれません。理念とは「学校が掲げている信念や理想のようなもの」で川崎医療短期大学学生の道標だと思います。私は学生時代に理念について深く考えたことはありませんが、医療職をめざす学生として、「なんで一番目が『人をつくる』なのかなぁ」と思っていました。

職場の理念、目標を考える立場になると、川崎医療短期大学の理念の奥深さ、素晴らしさがより分かってきました。本当はこのまま職場の理念にしたいくらいです。

医療人の前にまずひとりの人間として、高い人間力が必要となります。そして自分自身が心身とも健全でなければ、専門的知識・技能を身につけることも、よりよい医療を提供することもできません。やはり「人をつくる」が最初で、「体をつくる」「深い専門的知識・技能を身につける」と続くのが今はよく理解できます。

このようにとても素晴らしい理念を学生時代だけでなく、卒業してからも忘れないでほしいと思います。私もいつまでも記憶にとどめ、スタッフとともに成長したいと考えています。

▲ただいま検査中

寄贈

川崎医療短期大学同窓会から本学へ

寄贈年月日	平成23年6月吉日
寄贈備品	映像設備および音響設備一式
備品設置場所	大講義室(200)、体育館講義室1、2

同窓会から本学への寄贈の経緯

同窓会では『川崎医療短期大学創立40周年』を記念して、母校の発展に寄与するための教育支援事業のひとつとして、上記の講義室に映像設備（天井吊りプロジェクターおよび移動式プロジェクター）一式と音響設備一式を寄贈しました。多くの皆様にご利用いただきたいと思います。

川崎医療短期大学同窓会（松丘会）会長
小郷 正則

新任教職員紹介

本学の仲間になった教職員の方々を紹介します。

高津 浩子　短大図書館　副主任

6月に医大図書館から移動してまいりました。短大図書館には、絵本をはじめいろいろな図書があります。学習のための利用だけでなく、お楽しみの一冊も見つけていただければと思っています。

鳩谷 修平　教務課　事務職員

医療や介護の現場で働くことを志す学生の皆さんが充実した学生生活を送れるよう、精一杯サポートできれば…と考えています。事務室の中では学生の皆さんとの年齢は最も近いと思いますので、気軽に訪ねて来てくださいね。

研究生紹介

潘 好莹

焦 建利

6月7日(火)に、上海健康職業技術学院から2名の研究生が来日しました。

潘好莹（はんこうえい）さんは本学臨床検査科で、焦建利（しょうけんり）さんは川崎医療福祉大学医療情報学科で、来年3月末までそれぞれの専門分野を学ばれます。

地球温暖化対策ワーキンググループだより

川崎エコプロジェクト

白いサンゴと川口四郎先生

1970年頃、“白い珊瑚礁（さんごしょう）”という歌が街に流れました。甘美なメロディーと「青い海原　群れ飛ぶかもめ　心ひかれた白い珊瑚礁　いつか愛するひとができたら・・・」という歌詞（作詞・阿久 悠）に、若者の心が引き寄せられました。

それから約40年たった現在ではどうでしょう。白い珊瑚礁というと、サンゴの白化現象がスーッと頭に浮かんできませんか。つまり、地球温暖化による海水温の上昇などによって、サンゴの体内に共生している“褐虫藻（かっちゅうそう）”が体外に逃げ出すために、白いサンゴが創られてしまう現象を思い浮かべてしまうのです。褐虫藻の光合成によって生かされているサンゴにとっては、逃げ出しは死に連なる道。とてもとても「・・・心ひかれた白いサンゴ・・・」などと口ずさまれませんね。

最後に、ちょっと驚く話をいたしましょう。サンゴの体内に褐虫藻が住んでいることを世界に先駆けて発見したのは、川口四郎先生（1908～2004）です。先生は1973年から10年間、教授として本学で生物学を教えられました。

第37回　川崎学園祭

今年の学園祭のテーマは、「つながり」です。

大震災から７か月がたった今、被災地は復興に向けて確実に進んでいます。また、日本全国、世界各地から継続的な支援が続けられています。しかしながら、今なお多くの方々がこの大震災の影響に苦しんでおられるのも事実です。

そんな中、被災地から離れた岡山の地からも、私たち学生と教職員は、被災者の方々との「つながり」を意識し、引き続き支援していきたい、そして、その支援が被災者の方々に一筋の希望の光となれば…という想いを、この学園祭のテーマ「つながり」に込めています。

主要行事（10月～12月）

10月	3日	介護福祉科2年 介護実習Ⅳ（～11月5日）
	7日	全学科午後休講
	8日	学園祭（～9日）
	〃	第3回公開講座
	〃	第6回オープンキャンパス（～9日）
	12日	臨床検査科2年 臨床実習開始式
	15日	特別入試 (学生は校内立入禁止)
	21日	特別入試合格発表
	24日	臨床検査科2年 臨床実習（～2月16日）
	29日	看護科2年戴帽・受章式
11月	14日	看護科2年Bクラス 基礎看護実習Ⅱ（～25日）
	〃	介護福祉科1年 介護実習Ⅱ（～12月3日）
	28日	看護科2年Aクラス 基礎看護実習Ⅱ（～12月9日）
	〃	医療保育科2年保育実習Ⅱ（保育所）・Ⅲ（施設）（～12月9日）
12月	3日	放射線技術科 卒業研究発表会
	10日	臨床検査科3年 第10回研究発表会
	22日	医療保育科3年 発達障害児保育コース実習発表会

平成 24 年度　入試日程

（AO 入試は終了しました）

試験区分 / 学科等	特別入試（社会人枠を含む）			推薦入試・公募		一般入試前期		一般入試後期 A（センター試験利用）		一般入試後期 B
看護科	小論文	自己推薦書	面接・調査書	小テスト「国語総合」「数学Ⅰ」「英語Ⅰ」から1科目選択	面接・調査書	必須「国語総合・現代文」選択「英語Ⅰ・Ⅱ」「数学Ⅰ・数学A」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1科目	面接・調査書	必須「国語」	選択「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1科目利用 ※理科を2科目受験している場合は点数の高い科目を利用する 面接 調査書	小論文・面接・調査書
臨床検査科						看護科に同じ		必須「国語」		―
放射線技術科						必須「数学Ⅰ・数学A」選択「英語Ⅰ・Ⅱ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から1科目		必須「数学Ⅰ・数学A」		小論文・面接・調査書
介護福祉科						選択「国語総合・現代文」「数学Ⅰ・数学A」「英語Ⅰ・Ⅱ」「物理Ⅰ」「化学Ⅰ」「生物Ⅰ」から2科目		必須「国語」		
医療保育科						看護科に同じ		必須「国語」		
出願資格	大学入学資格を有する者。社会人枠は平成24年4月1日現在で満22歳に達し社会人経験を4年以上有する者 **専願**			大学入学資格を有する者で出身校の校長が推薦する者。評定平均及び現役・過年度卒を問わない **専願**		大学入学資格を有する者		大学入学資格を有する者。Aは大学入試センター試験の指定科目受験者 ※A・Bのいずれかの選択出願 A：大学入試センター試験利用 B：本学独自問題（小論文）		
入学検定料	25,000			25,000		25,000		25,000		
試験日	10/15(土)			11/26(土)		2/5(日)		3/17(土)		
出願期間	9/16（金）～10/6（木）[消印有効]			11/1（火）～11/17（木）[消印有効]		1/6（金）～1/27（金）[消印有効]		2/27（月）～3/10（土）[消印有効]		
合格発表	10/21(金)午前9時			12/2(金)午前9時		2/10(金)午前9時		3/21（水)午後5時		

平成23年度 第3回公開講座

入場無料（一般の方の参加をお待ちしています）

講座名　「ダイエットと心の健康」

講　師　曽谷 貴子（本学看護科 准教授）
日下 知子（本学看護科 講師）

日　時　10月8日（土）
10:00～11:30

会　場　川崎医療短期大学 体育館 **102講義室**

申込み・お問い合わせ先
〒701-0194　岡山県倉敷市松島316
川崎医療短期大学　公開講座係
TEL：086−464−1032
FAX：086−463−4339
Eメール：koukai@jc.kawasaki-m.ac.jp

編集後記

「大学全入時代」「ゆとり教育」などが社会問題となり、基礎学力が不足がちな大学生への対策と支援が急務とされています。今回の「特集」では、この問題に対する本学の取組みの様子や今後の構想などを、「教育戦略」として教務部長が綴りました。この問題は、本学だけが抱えるものではなく、全国の多くの大学が深刻な事態として捉え、その対応策を思案しています。このことは、悪いことばかりでなく、これまでの「教育の在り方」を考え直すよい機会だとも思っています。これまでの教育から脱皮し、一回り大きく成長した「新しい教育」へと繋げていきたいです。

初秋を迎えましたが、「夏のなごり」の一コマを贈ります。

（天野　貴司）

蝉の抜け殻

川崎医療短期大学広報誌「若きいのち」(74号)
2011年9月発行

編集発行：広報誌編集委員会
天野貴司（放射線技術科・委員長）
橋本美香（一般教養・副委員長）
名木田恵理子（一般教養）
重田崇之（一般教養）
滝本茂子（看護科）
永瀬澄香（臨床検査科）
河邉聡子（介護福祉科）
中井　靖（医療保育科）
山田　篤（庶務課）
重政有里（庶務課・書記）

写真協力：二葉写真館
印　　刷：友野印刷株式会社
皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。
〒701-0194 倉敷市松島316
川崎医療短期大学 広報誌編集委員会
電話：086-464-1032（庶務課）
Eメール：kouhou@jc.kawasaki-m.ac.jp
ホームページ
http://www.kawasaki-m.ac.jp/jc/

既刊の「若きいのち」は、本学ホームページでご覧いただけます。